

育てて食べてみんなでわくわく

凧々子と夏野菜たち～野菜の違いを感じながら～

なかいず認定こども園

5歳児28名

遠藤先生、三栖先生

山邊先生、濱野先生

活動のねらい

- ・トマトの成長過程に興味をもち、形や色の変化に気付いたり、凧々子や他の野菜の特性を学びながら育てる楽しさを味わう。
- ・栽培活動を通して野菜にも“いのち”があること知り、感謝の気持ちをもちながら育てたり食べたりする。
- ・自分たちで育てたトマトを調理して味わうことで食への興味関心が高まり、苦手な野菜も食べてみようとする。



活動の概要と流れ

- | | | |
|----|---|--|
| 4月 | ・春夏野菜について興味をもち、昨年度の経験を振り返りながら図鑑で調べる。 | |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポットの苗を観察し、畑へ植え替える。 ・昨年度の栽培の振り返りから凧々子がなるべく病気にならないような環境作りとして、コンパニオンプランツの活用を紹介してもらい、苗を植える場所の隣にニラを植え、2種類の植物の違いに興味や疑問をもてるようにした。 ・畑は園外にあり毎日観察することが難しいので、プランターや鉢でも栽培した。 ・実際に体験したことや感じたことを紙に書き、「凧々子図鑑」を作り始めた。 | |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・ニラが雑草ではないことに気付き始める。「別の野菜が植えてあるのでは？」という疑問に、つながり予想を立て、実物の野菜(ニラとネギ、玉ねぎは写真を引用)を用意し見比べる。形やにおいがニラに似ていることに気付き、ニラを植えた意味を知る。 ・駐車場横のプランターで育てている凧々子が病気になったことに疑問をもつ。凧々子の資料を用意することで実物と写真を見比べながら調べる。尻腐れ症であることがわかり、原因と対処法を調べる。栄養(カルシウム)や水分が足りないことがわかり肥料をまいたり、土の様子を観察したりするようになる。 ・栽培ガイドブックの色見本を見ながらトマトの収穫時期を調べる。 | |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場横にあるプランターの凧々子の尻腐れ症が増え、畑との成長の違いに気付く。 ・収穫した数を数えて表にしたり重さを量ったり、大きさを比べたりする。 ・また、給食室で調理(トマトカレー)してもらい、味わう。 | |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・凧々子以外にも種類の違うトマトを育てているので、形や色、断面の違いを観察し、伝え合いの場を設けたり絵で表現したりする。 ・家庭に持ち帰って調理する。家庭との連携にもつなげるため凧々子のエピソード記録をお願いします。(子どもとのやりとりやどんな料理にしたかなど) | |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍トマトの皮むき体験 ・トマトソースを使ったクッキング(ぎょうざの皮のピザ) | |

調理(実習)メニュー

ぎょうざの皮のピザ

<子どもの活動>

- ・冷凍した凧々子の皮むき
- ・トマトを刻む、煮込むところを見学し、変化を感じる。
- ・ぎょうざの皮にトマトソースを塗り、コーン・ピーマン・ウィンナー・チーズをトッピングする。



調理(実習)メニュー

「クッキング」ぎょうざの皮でピザ作り

～トマトにも“いのち”がある凜々子がトマトソースに変化していく過程にびっくり!!～

収穫した凜々子は冷凍保存し、皮むき体験やトマトソース作りをした。ソース作りでは煮込むことでトマトが変化していく様子も見ることができ、子どもたちも変化に驚いていた。凜々子を包丁で切る際に「かわいそう」という声もあり、自分たちが育てたトマトへの愛着も見られた。しかし「いのちをいただく」意味を伝えるため、自分たちが育てた凜々子を食べることで身体の中で栄養に変わり毎日元気に過ごせることや、凜々子が病気になってしまった理由を調べたり対策を考えたりすることで、次の“いのち”へもつながっていくことを考える機会を設けた。自分たちで育てたからこそ、感謝をもっていただくことにつながった。また給食先生からもイラストを通して作物の役割と感謝をもっていただくことの意味や大切さを教わった。トマトソースはピザ作りで使い、一人一枚オリジナルのピザを作った。自分たちで育て調理したトマトは一段とおいしく、トマトが苦手な子ども凜々子の甘みを味わいながらおいしそうに食べていた。



取り組みの工夫と実践の成果

～「なんでだろう？」の気持ちから広がる、子どもたちの気付きや発見～

成長の違いに触れられるよう、畑とプランターの両方で育てられるようにした。プランターは興味をもった時に観察し、成長を見守れるようクラスのベランダにも置くことにした。また、凜々子だけではなく数種類のミニトマト、大玉トマトを用意することで、トマトにも品種があることに気付けるようにしたり、昨年度の凜々子を育てた取り組みを活かし、凜々子とニラのコンパニオンプランツについて触れられる工夫をしたりした。はじめはニラを雑草と捉える子が多かったが、じっくり観察していく中で「別の野菜と一緒に植えてあるのかも」という疑問が生まれ、どんな野菜か予想し始めた。図鑑で何の野菜か調べる中でニラ、ネギ、玉ねぎの3つが候補にあがった。実物を保育者が用意して形や色、においを比べることでニラだと分かった。また、昨年度と比べプランターや鉢、畑でも病気にかかる時期が遅く、収穫数もかなり多かったため、ニラを植えたおかげかもしれないと推測し、トマトのコンパニオンプランツについて学ぶ機会ももてた。園の畑で野菜を育てたり観察したりするのはもちろん、「やったことを忘れないようにしなきゃ」という子どものつぶやきから野菜の図鑑づくりも始まった。写真や絵、文字で経験したことをまとめ、掲示することで凜々子への興味がより高まりじっくりと観察するようになった。

地域・保護者との連携

～活動を通してつながる心～

自園での栽培活動は地域の方々にも手伝いをお願いしている。その時に自分たちが行っていることを伝え合う場を設け、栽培活動での気づきや活動内容を発表した。子どもたちの発表を聞き「水やりや観察するのはもちろんのこと、毎日“おはよう”“大きくなってね”と声をかけると、よりおいしい野菜に育つ」ということを教わった。保護者には凜々子のエピソード記録の協力をお願いし、どんな料理を作ったかや凜々子を通してのやりとりを書いてもらった。集まったエピソード記録は玄関前に掲示し、保護者同士の会話のきっかけにも繋がったように感じた。また、凜々子の成長をまとめた図鑑を保護者の目が届きやすい玄関に掲示したり、収穫したものを家庭に持ち帰りカレーやピザ、ミートソースなどの料理にして食べ、園と家庭、地域の方々と連携しながら食育活動を進めることができた。

受賞理由

園児なりの栽培の工夫や調べ学習がとても素晴らしかったです。栽培環境の違いによる比較やコンパニオンプランツの学習など、年齢に合わせた学習方法として参考になる事例でした（ニラが雑草ではないことに気づいた点がとても微笑ましかったです）。地域や保護者との交流や対話にもつながられていて、深い体験をされたことが伝わってきました。